

2016 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

高 橋 さゆり (東京大)

サン・ディエゴで開催された2016年のアメリカ泌尿器科学会総会終了後の夜、研修先である南カルフォルニア大学 (USC) のあるロサンゼルスへ向かった。アクセスの便利なダウンタウン中心部にあるホテルを用意していただき4週間の研修が始まった。

USCの泌尿器科はロボット手術で世界的権威であるDr. Gillが主任教授を務める大人数の科である。年間の泌尿器科悪性腫瘍の件数は約900~1,000件で、そのうち約80%が腹腔鏡・ロボット手術で行われる。前立腺全摘除術、腎部分切除術は基本的にロボット手術で行われ、膀胱全摘術+尿路変更の3、4割がロボット手術で行われる。USCの病院建物はいくつかあるのだが、ロボット手術はKech Hospital of USCの手術室で行われる。手術室は25部屋ありdaVinci SiとXiが計4台稼働している。初日から最終日まで朝から夜まで手術室に滞在し、Dr. Gillの他、やはりロボット手術で名声の高いProf. Aronなど複数の先生方からその手技を学ぶことができた。USCの朝は早く、午前6時に入室となる日もありなかなかハードな日々であった。また国内外から数多くの医師が常時見学に来ており知名度の高さは群を抜いていると感じた。基礎研究から臨床までこなすPh.Dを持つ医師が多い日本のシステムと異なり、臨床に専念する医師が多いことや、一医師がこなす手術件数が圧倒的に多いことなどが要因となるのか、手術の速さ、的確さは圧巻であった。保険制度も異なるため、日本では見られないような定型的でない手術、例えば前立腺全摘後のリンパ節再発症例に対するSalvage RALP、ロボットによる膀胱憩室癌切除術、腎癌再発腫瘍摘除術など多々行われており有益な経験を積むことができた。またレジデントらは豊富な開腹手術を経験した後、腹腔鏡手術の修練は行わず、ロボット手術による腎摘術から研修を開始しており、日本も今後そのような流れになる施設も増えるのではないかと予測された。

滞在期間中、週末はUSCで勤務する医師らとバーベキューを楽しんだり、ユニオン駅でピアノを演奏しフレンドリーなロサンゼルス市民と交流を深めることができた。



写真1 Prof. Aron と手術室にて。



写真2 週末にUSCの医師らとBBQ

最後にこのすばらしいプログラムを実行してくださったJUAおよびAUA両学会の諸先生方、事務の方々、滞在中面倒を見て下さったUSCのスタッフの方々に感謝の意を表したい。